

[別表 1]

小・中・高の体系化整理表
ダンス系(表現・創作ダンス)の内容の体系化

| 学校種 | | 小学校 | | |
|-----------|---------------|---|---|---|
| 発達の段階 | 各種の運動の基礎を培う時期 | | 多くの領域の学習を経験する時期 | |
| | 第1学年・2学年 | | 第3学年・4学年 | |
| 領域(領域の内容) | | 表現リズム遊び(表現遊び) | 表現運動(表現) | |
| 技能 | 内容 | 表現遊びでは、身近な題材の特徴をとらえ全身で踊ること。 | 表現では、身近な生活などの題材からその主な特徴をとらえ、対比する動きを組み合わせたリ繰り返したりして踊ること。 | 表現では、いろいろな題材から表したいイメージをとらえ、即興的な表現や簡単なひとまとまりの表現で踊ること。 |
| | 解説 | 身近な動物や乗り物などのいろいろな題材の様子や特徴をとらえて、そのものになりきって全身の動きで楽しく踊る。 | 「身近な生活などの題材」とは、「具体的な生活からの題材」やそれと対比する「空想の世界からの題材」などを示している。それらの中から表したい題材を見付け、その主な特徴や感じをとらえてひと流れの動きで即興的に表現したり、表したい感じを中心に「はじめとおわり」を付けた動きにしたりして表現することができるようにする。なお、指導に際しては、児童の関心や能力にふさわしい題材を取り上げ、多様な表現に取り組みめるようにする。 | 「いろいろな題材」とは、「激しい感じの題材」や「群(集団)が生きる題材」、また、題材を一つに固定しない「多様な題材」を示している。それらの中から、表したい感じやイメージを強調するように、変化を付けたひと流れの動きで即興的に表現したり、グループで「はじめーなかーおわり」を付けた簡単なひとまとまりの動きにしたりして表現することができるようにする。指導に際しては、表現の題材を児童一人一人の関心や能力の違いに応じて選ぶとともに、クラス共通の題材だけでなく、個人やグループによって広い範囲から選ぶようにする。 |
| 技能 | 例示 | <p>[題材と動きの例示]</p> <p>○鳥、昆虫、恐竜、動物園などの動物や飛行機、遊園地の乗り物など、児童にとって身近で関心が高く、特徴のある具体的な動きを多く含む題材</p> <p>・いろいろな題材の特徴や様子を「○○が○○しているところ」(サルが木登りをしているところ、小鳥がえさをついばんでいるところ、カマキリが敵と戦っているところなど)のような具体的な動きをとらえ、跳ぶ、回る、ねじる、這う、素早く走るなど、全身の動きに高・低の差や速さの変化をつけて即興的に踊ること。</p> <p>・動きの中に「大変!○○だ」(池に落ちた、サメが襲ってくるなど)のような急変する場面を入れて簡単な話にして続けて踊ること。</p> | <p>[題材と動きの例]</p> <p>○具体的な生活からの題材ー「○○づくり」(粘土細工、料理など)、「1日の生活」(洗濯物、掃除、スポーツなど)など、身近な生活の中からイメージがとらえやすく多様な感じの動きを含む題材</p> <p>・題材の主な特徴をとらえて、表したい感じを大きく・小さく、速く・遅くなど、動きに差をつけて誇張したり、2人に対応する動きを繰り返したりして、ひと流れの動きにして即興的に踊ること。</p> <p>・表したい感じを中心に、感じの異なる動きや急変する場面などをつなげて「はじめとおわり」を付けた動きにして感じを込めて踊ること。</p> <p>○「空想の世界からの題材」ー「○○探検」(ジャングル、宇宙、海底など)など未知の想像が広がる題材や、忍者や戦いなど2人組で対比する動きを含む題材</p> <p>・○○探検では多様な場面をとらえて即興的に踊ったり、2人組で対比する動きでは、「追いつ・追われつ」などの対応する動きや「戦い・対決」などの対立する動きを組み合わせたリ、跳ぶ・転がる、動く・止まるなどの対極の動きを繰り返したりして、ひと流れの動きで即興的に踊ること。</p> <p>・表したい場面を中心に、感じの異なる場面や急変する場面などの変化のある動きをつなげて「はじめとおわり」を付けた動きにして感じを込めて踊ること。</p> | <p>[題材と動きの例示]</p> <p>○「激しい感じの題材」ー生活や自然から「激しく○○する」(満員電車、火山の爆発、嵐の中の難破船など)や「急に○○する」(コンピューターが壊れた、稲妻が走る、怒りの爆発など)など、変化や起伏のある動きを含む題材</p> <p>○「群(集団)が生きる題材」ー生活や社会、自然などから「祭り」「スポーツの攻防」「街の風景」など、特徴的な群の動きや迫力のある題材</p> <p>・題材の変化や起伏の特徴をとらえて、素早く走る、急に止まる、回る、ねじる、跳ぶ、転がるなどの動きを組み合わせたリ繰り返したりして激しい感じや急変する感じをひと流れの動きで即興的に踊ること。</p> <p>・集まる(固まる)・離れる、合わせて動く・自由に動くなど、表したいイメージにふさわしい簡単な群の動きで即興的に踊ること。</p> <p>・表したいイメージを「はじめーなかーおわり」を付けた簡単なひとまとまりの群の動きにして、友達と感じを込めて通して踊ること。</p> |

| 中学校 | | 高等学校 | |
|--|------|---|----------|
| 多くの領域の学習を経験する時期 | | 卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにする時期 | |
| 第1学年・第2学年 | 第3学年 | 入学年次 | その次の年次以降 |
| ダンス(創作ダンス) | | | |
| <p>創作ダンスでは、多様なテーマから表したいイメージをとらえ、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ること。</p> | | <p>創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方を変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめて踊ること。</p> | |
| <p>創作ダンスは、多様なテーマから表したいイメージをとらえ、動きに変化を付けて即興的に表現することや、変化のあるひとまとまりの表現ができるようにすることをねらいとしている。</p> <p>「多様なテーマから表したいイメージをとらえ」とは、日常的な動きや心象(意識の中に思い浮かべたもの)などの多様なテーマから、自らが表したいイメージをとらえることである。そのため、多様なテーマから具体的なイメージを示すなどして、自らが表したいイメージをとらえやすくなるようにすることが大切である。</p> <p>「動きに変化を付けて即興的に表現する」とは、動きを誇張したり、変化を付けて「ひと流れの動き」にして表現することである。また、思いつくままにとらえたイメージをすぐに動きにかえて表現することである。</p> <p>「変化のあるひとまとまりの表現にして踊る」とは、表したいイメージを変化と起伏(盛り上がり)のある「はじめ なかー おわり」のひとまとまりの構成で表現して踊ることである。このため、指導に際しては、テーマに適した動きで表現できるようにすることが重要となるため、①多様なテーマの例を具体的に示し、取り組みやすいテーマを選んで、動きに変化を付けて素早く即興的に表現することができるようにする。次に、②表したいイメージやイメージを強調するように表現して踊ることができるようになる。①の学習段階では、次のような活動を参考に行うようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループを固定せず多くの仲間とかがわり合うようにして、毎時間異なるテーマを設定し、即興的に表現できるようにする。その際、身近なテーマから連想を広げてイメージを出す。思いついた動きを即興的に踊ってみたり、仲間と動きをまねたりするなどの活動を取り上げる。 ・動きを誇張したり、繰り返したり、動きに変化を付けてたりして、ひと流れの動きで表現できるようにする。次に②の学習段階では、次のような活動を参考に行うようにする。 ・仲間とともに、テーマにふさわしい変化と起伏や場の使い方、 「はじめ なかー おわり」の構成で表現して踊ることができるようになる。 ・仲間やグループ間で動きを見せ合う発表の活動を取り入れる。 | | <p>「表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ」とは、多様なテーマから、表現にふさわしいイメージを選んで、見る人に伝わりやすいように、イメージを端的にとらえることである。</p> <p>「個や群で」とは、即興的に表現したり作品にまとめて踊る際のグループにおける個人や集団の動きを示している。個人や集団の動きには、主役と脇役の動き、ユニゾン(一斉に同じ動きで動く)やばらばらの動き、集団の動きを少しずつずらした動き、密集や分散などの動きなどがある。</p> <p>「緩急強弱のある動きや空間の使い方を変化を付けて即興的に表現する」とは、緩急(時間的要素)や強弱(力の要素)の動きの変化を付けたり、列・円などの空間の使い方、思いつくままにとらえたイメージをすぐに動きにかえて表現することである。</p> <p>「簡単な作品にまとめて踊る」とは、即興的な表現から、表したいテーマにふさわしいイメージを一層深めて、変化や起伏のある「はじめ なかー おわり」の構成で表現して踊ることである。指導に際しては、表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、即興的に表現したり、個性を生かした簡単な作品にまとめて踊るようにできることが重要となるため、①表したいテーマの例を具体的に示して、取り組みやすいテーマを選んで即興的に表現する。次に、②変化や起伏のある「はじめ なかー おわり」の構成で簡単な作品にまとめて踊るなどの工夫を行うことが大切である。①の学習の段階では、次のような活動を参考に行うようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表したいテーマと題材や動きの例示を参考にしてテーマを設定したり、これまで取り組んだテーマから表したいイメージを各自で選んだりする。その際、取り組んでみたいテーマや題材や動きなどでグループを組み、思いついた動きを即興的に表現したり、仲間と動きをまねたり、ひと流れの動きにしたりしてみるなどの活動を取り上げる。 ・テーマにふさわしい個や群の構成で、一番表現したい主要場面を創る。 ・緩急強弱のある動きや空間の使い方や場面の転換などで、変化を付けた「ひと流れの動き」にする。 ②の学習の段階では、次のような活動を参考に行うようにする。 ・はじめとおわりを付け、ひとまとまりの作品にまとめる。 ・表したい内容のテーマにふさわしいイメージを深めて表現できるように、踊り込んで仕上げる。 ・仲間やグループ間で、作品を見せ合う発表の活動を取り入れる。 | |
| <p>＜多様なテーマと題材や動きの例示＞ 下記のAからEまでは多様なテーマの例示であり、括弧の中はそのテーマから浮かび上がる題材や関連する動き、並びに展開例である。</p> <p>A 身近な生活や日常動作(スポーツいろいろ、働く人々など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番表したい場面や動きを、スローモーションの動きで誇張したり、何回も繰り返したりして表現すること。 B 対極の動きの連続など(走る一歩一歩一転がる、走る一止まる、伸びる一縮むなど) ・「走る一歩一転がる」などをひと流れでダイナミックに動いてみてイメージを広げ、変化や連続の動きを組み合わせて表現すること。 C 多様な感じ(激しい、急変する、軽快な、やわらかい、鋭いなど)・生活や自然現象、人間の感情などの中からイメージをとらえ、緩急や強弱、静と動などの動きを組み合わせて変化やめりはりを付けて表現すること。 D 群(集団)の動き(集まるーとび散る、磁石、エネルギー、決断など) ・仲間とかがわり合いながら密集や分散を繰り返したり、ダイナミックに空間が変化する動きで表現すること。 E もの(小道具)を使う(新聞紙、布、ゴムなど)・ものを何かに見立ててイメージを広くとらえ、変化のある簡単なひとまとまりの表現にして踊ったり、場面の転換に変化を付けて表現したりすること。 | | <p>＜表したいテーマと題材や動きの例示＞ 下記のAからFまでは表したいテーマの例示であり、括弧の中はそのテーマから浮かび上がる題材や関連する動き、並びに展開例である。</p> <p>A 身近な生活や日常動作(出会いと別れ、街の風景、繰られた日記など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「出会いと別れ」では、すれ違ったりくっついたり離れたりなどの動きを、緩急強弱を付けて繰り返して表現すること。 B 対極の動きの連続など(ねじる一回る一見るなど) ・「ねじる一回る一見る」では、ゆっくりギリギリまでねじって力をためておき、素早く振りほどくように回って止まり、視線を決めるなど変化や連続のあるひと流れの動きで表現すること。 C 多様な感じ(静かな、落ち着いた、重々しい、力強いなど) ・「力強い感じ」では、力強く全身で表現すること。 D 群(集団)の動き(大回りー小回り、主役と脇役、迷路、都会の孤独など) ・「大回りー小回り」では、大きな円や小さな円を描くなどをおして、ダイナミックに空間が変化するように動くこと。 E もの(小道具)を使う(椅子、楽器、ロープ、傘など) ・「椅子」では、椅子にのぼる、座る、隠れる、横たわる、運ぶなどの動きを繰り返して、「もの」のかわり方に着目して表現すること。 F はこびとストーリー(序破急、起承転結、物語など) ・気に入ったテーマを選び、ストーリー性のあるはこびで、一番表現したい中心の場面を「ひと流れの動き」で表現して、はじめとおわりを付けて簡単な作品にまとめて踊ること。 | |
| <p>＜表したいテーマと題材や動きの例示＞ 下記のAからFまでは表したいテーマの例示であり、括弧の中はそのテーマから浮かび上がる題材や関連する動き、並びに展開例である。</p> <p>A 身近な生活や日常動作(「ただ今、猛勉強中」、シャッターチャンス、クラス討論など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ただ今、猛勉強中」などと題して、本を読む、書く、考えるなどの動きを猛スピードで繰り返したり、スローモーションで動いたりするなどの変化を付けて表現すること。 B 対極の動きの連続(伸びるー落ちる一回るー転がるなど)・「伸びるー落ちる一回るー転がる」では、体をゆっくりとした動作で極限まで伸ばし、瞬間的に脱力して床に崩れ落ち、ゆっくりと回る。転がるなどのひと流れの動きをし、歩く・走るなどのつなぎの動きを入れて繰り返したりして表現すること。 C 多様な感じ(激しい・静かな、急変する・持続する、鋭い・柔らかい、素早い・ゆっくりしたなどの多様な感じの中から対照的な感じを表現する) ・「声にならない叫び」などと題した題材では、多様な感じの中から「静かな」と「激しい」といった対照的な感じをとらえ、こみ上げる感情を抑えている様子を、こぶしを握る、胸を抱えるなどの静かな動きと、回って押す、鋭く伸びる、足を踏み鳴らす、ジャンプするなどの激しい動きで、緩急強弱を付けて繰り返して表現すること。 D 群(集団)の動き(カノン、ユニゾン、密集一分散など) ・2〜3群に分かれてタイミングをずらした動き(カノン)、全体で統一した動き(ユニゾン)、密集一分散と群の動きに変化を付けて空間が変化するよう動くこと。 E もの(小道具)を使った動き(大きな布、ゴム、机、ティッシュペーパー、新聞紙のボール、など質感や大きさの異なる「もの」を取り上げる) ・大きな布では、布の中に隠れる・出る、布をまるめる・広げる・揺らすなどの「もの」を使って、形状に変化を付けた動きで表現すること。 F はこびとストーリー(気に入った小説、詩、絵画などのテーマから作品をまとめる) ・気に入ったテーマを選び、ストーリー性のあるはこびで、一番表現したい中心の場面をふさわしい「緩急強弱のあるひと流れの動き」で表現して、繰り返したり時間・力・空間の変化と強調によって、ダイナミックな盛り上がりをつけて作品にまとめて踊ること。 | | <p>＜表したいテーマと題材や動きの例示＞ 下記のAからFまでは表したいテーマの例示であり、括弧の中はそのテーマから浮かび上がる題材や関連する動き、並びに展開例である。</p> <p>A 身近な生活や日常動作(「ただ今、猛勉強中」、シャッターチャンス、クラス討論など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ただ今、猛勉強中」などと題して、本を読む、書く、考えるなどの動きを猛スピードで繰り返したり、スローモーションで動いたりするなどの変化を付けて表現すること。 B 対極の動きの連続(伸びるー落ちる一回るー転がるなど)・「伸びるー落ちる一回るー転がる」では、体をゆっくりとした動作で極限まで伸ばし、瞬間的に脱力して床に崩れ落ち、ゆっくりと回る。転がるなどのひと流れの動きをし、歩く・走るなどのつなぎの動きを入れて繰り返したりして表現すること。 C 多様な感じ(激しい・静かな、急変する・持続する、鋭い・柔らかい、素早い・ゆっくりしたなどの多様な感じの中から対照的な感じを表現する) ・「声にならない叫び」などと題した題材では、多様な感じの中から「静かな」と「激しい」といった対照的な感じをとらえ、こみ上げる感情を抑えている様子を、こぶしを握る、胸を抱えるなどの静かな動きと、回って押す、鋭く伸びる、足を踏み鳴らす、ジャンプするなどの激しい動きで、緩急強弱を付けて繰り返して表現すること。 D 群(集団)の動き(カノン、ユニゾン、密集一分散など) ・2〜3群に分かれてタイミングをずらした動き(カノン)、全体で統一した動き(ユニゾン)、密集一分散と群の動きに変化を付けて空間が変化するよう動くこと。 E もの(小道具)を使った動き(大きな布、ゴム、机、ティッシュペーパー、新聞紙のボール、など質感や大きさの異なる「もの」を取り上げる) ・大きな布では、布の中に隠れる・出る、布をまるめる・広げる・揺らすなどの「もの」を使って、形状に変化を付けた動きで表現すること。 F はこびとストーリー(気に入った小説、詩、絵画などのテーマから作品をまとめる) ・気に入ったテーマを選び、ストーリー性のあるはこびで、一番表現したい中心の場面をふさわしい「緩急強弱のあるひと流れの動き」で表現して、繰り返したり時間・力・空間の変化と強調によって、ダイナミックな盛り上がりをつけて作品にまとめて踊ること。 | |

付録

[別表 2]

ダンス系(フォークダンス)の内容の体系化

| 学校種 | | 小学校 | | |
|-----------|---------------|--|-----------------|--|
| 発達の段階 | 各種の運動の基礎を培う時期 | | 多くの領域の学習を経験する時期 | |
| | 第1学年・2学年 | | 第3学年・4学年 | |
| 領域(領域の内容) | | 表現リズム遊び(リズム遊び) | | 表現運動(フォークダンス) |
| 技能 | 内容 | リズム遊びでは、軽快なリズムに乗って踊ること。 | | フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて簡単なステップや動きで踊ること。 |
| | 解説 | 軽快なリズムの音楽に乗って弾んで自由に踊ったり、友達と調子を合わせたりして楽しく踊る。 | | 伝承されてきた日本の地域の踊りや外国の踊りから、踊り方の特徴をとらえ、基本的なステップや動きを身に付けて、音楽に合わせてみんなで楽しく踊って交流することができるようにする。また、踊りを通して日本のいろいろな地域や世界の文化に触れるようにする。なお、指導に際しては、踊りに必要な簡単な小道具(笠や鳴子など)や衣装を着けたり、踊りに伴う掛け声などを付けたりして踊りの雰囲気を高めるようにする。 |
| | 例示 | <p>フォークダンス</p> <p>〔リズムと動きの例示〕</p> <p>○ 弾んで踊れるようなやや速いテンポのロックやサンバなどの軽快なリズムの曲や児童にとって身近で関心の高い曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムに乗って、弾む、回る、ねじる、スキップするなどの動きを繰り返して即興的に踊ること。 ・友達と手をつないだり、まねをしったりして踊ること。 <p>※ 「内容の取扱い」で示されているフォークダンスを含めて指導する場合の〔リズム(踊り)と動きの例示〕</p> <p>○ シェンカ(フィンランド)、キンダーボルカ(ドイツ)、タタロチカ(ロシア)など、軽快なリズムと易しいステップの繰り返しで構成される簡単なフォークダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキップやランニングなどの簡単なステップで、音楽に合わせてみんなで踊ること。 | | <p>〔踊りと動きの例示〕</p> <p>○ 日本の民謡</p> <p>それぞれの地域で親しまれている踊りや日本の代表的な民謡の中から、軽快なリズムの踊りや力強い踊りなど、特徴が異なる踊りや簡単な動きで構成されている踊り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの踊り方の特徴をとらえ、構成された基本的な踊り方を身に付けて踊ること。 ・日本の民謡に共通する踊り方の特徴をとらえ、阿波踊りなどの軽快なリズムの踊りでは軽快な足さばきや手振り、ソーラン節やエイサーなどの力強い踊りでは低く踏みしめるような足取りや腰の動きで踊ること。 <p>○ 外国のフォークダンス</p> <p>外国のフォークダンスの中から、特徴や感じが異なる踊りや簡単な隊形・ステップ・組み方で構成される踊り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイム・マイム(イスラエル)などシングルサークルで踊る力強い踊りでは、みんなで手をつなぎ、力強くステップを踏みながら移動して踊ること。 ・コロブチカ(ロシア)などパートナーチェンジのある軽快な踊りでは、パートナーと組んでスリーステップターンなどの軽快なステップで動きを合わせたり、パートナーチェンジをスムーズにしたりしながら踊ること。 ・グスタフス・スコール(スウェーデン)など特徴的な隊形と構成の踊りでは、軽快なスキップやアーチくぐりなどをパートナーや全体でスムーズに隊形移動しながら踊ること。 |

| 中学校 | | 高等学校 | |
|---|------|---|----------|
| 多くの領域の学習を経験する時期 | | 卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにする時期 | |
| 第1学年・第2学年 | 第3学年 | 入学年次 | その次の年次以降 |
| ダンス (フォークダンス) | | | |
| フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊ること。 | | フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で踊ること。 | |
| <p>フォークダンスは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で踊ることができるようにすることをねらいとしている。また、フォークダンスには、伝承されてきた日本の「民謡」や外国の「フォークダンス」があり、それぞれの踊りの特徴をとらえ、音楽に合わせてみんなで踊って交流して楽しむことができるようにすることが大切である。</p> <p>「踊り方の特徴をとらえる」とは、日本の民謡では、地域に伝承されてきた民謡や代表的な日本の民謡を取り上げ、その特徴をとらえることである。例えば、日本の民謡には、着物の袖口から出ている手の動きと裾さばきなどの足の動き、低く踏みしめるような足どりや腰の動き、ナンバ(左右同側の手足を同時に前に振り出す動作)の動き、小道具を操作する動き、輪踊り、男踊りや女踊り、歌や掛け声を伴った踊りなどの特徴がある。また、外国のフォークダンスでは、代表的な曲目を選んで踊り方(ステップ、動き、隊形、組み方など)の難易度を考慮し、様々な国や地域の踊りを取り上げ、その特徴をとらえることである。例えば、外国のフォークダンスには、靴で踏み軽快なスキップやボルカステップ、輪や列になって手をつないで踊る、パートナーと組んで踊る、グランド・チェーンなどのパートナーチェンジを伴って踊るなどの特徴的なステップや動きがある。</p> <p>「音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊る」とは、音楽に合わせて、日本の民謡に見られる特徴的な足どりや手振りの動きや、外国のフォークダンスでの軽快なステップなどで踊ることを示している。このため、指導に際しては、日本や外国の風土や風習、歴史などの踊りの由来を理解して、踊り方の特徴をとらえて踊ることによってその楽しさが深まるため、民族ごとの生活習慣や心情が反映されている由来や、踊りは文化の影響を受けていることなどを、資料やVTRなどで紹介して、はじめは踊り方を大づかみに覚えて踊ることができるようにする。次に、難しいステップや動き方を取り出して、踊ることができるようにするなどの工夫を行うことが大切である。</p> <p>＜踊りと動きの例示＞ 日本の民謡 ・花笠音頭などの小道具を操作する踊りでは、曲調と手足の動きを一致させて、にぎやかな掛け声と歯切れのよい動きで踊ること。 ・春駒などの馬に乗って走る様子の踊りでは、軽快で躍動的な動きで踊ること。 ・炭坑節などの労働の作業動作に由来をもつ踊りでは、掘ったり、かついたり、トロッコを押すような体の使い方と動きで踊ること。 ・鹿児島おはら節などの躍動的な動作が多い踊りでは、勢いのあるけり出し足やバツと聞く手の動きで踊ること。外国のフォークダンス ・オクラホマ・ミクサー(アメリカ)などのパートナーチェンジのある踊りでは、軽快なステップで相手と合わせて踊り、滑らかなパートナーチェンジをして踊ること。 ・ドードレブスカ・ボルカ(旧チェコスロバキア)などの隊形が変化する踊りでは、滑らかなステップやターンをして踊ること。 ・バージニア・リール(アメリカ)などの隊形を組む踊りでは、列の先頭のカップルに動きを合わせて踊ること。</p> | | <p>「踊り方の特徴をとらえる」とは、ステップや動き方、音楽、小道具、地域などの踊りに見られる特有の動きなどの異なった特徴をとらえることである。</p> <p>「特徴的なステップや動きと組み方」とは、躍動的な動きや手振りの動きを強調する日本の民謡などの特徴的な動き、外国のフォークダンスでのパートナーとのステップや動きと組み方(オープン・ポジションやクローズド・ポジションをはじめとした様々な組み方)のことである。指導に際しては、日本の民謡では、地域に伝承されてきた民謡や代表的な日本の民謡の中から、軽快なリズムの踊りや力強い踊りを難易度を踏まえて選び、その特徴をとらえるようにする。外国のフォークダンスでは、代表的な曲目から、曲想をとらえて、踊り方(複数のステップの組み合わせ、隊形、組み方など)の特徴をとらえるようにする。</p> <p>「踊り方の特徴を強調して、音楽に合わせて」とは、これらの特徴を強調して、音楽のリズムや曲想に合わせて、「多様なステップや動きと組み方」とは、躍動的な動きや手振り、腰を落とした動きを強調するなどの日本の民謡の多様な動き、外国のフォークダンスでのパートナーとの多様なステップや動きとオープン・ポジションやクローズド・ポジションをはじめとした様々な組み方のことである。</p> <p>「仲間と対応して踊る」とは、仲間とタイミングや調子を合わせて、組んだ手で軽く押ししたり引いたりする、ステップやターンなど相手の動きに対応して手や足を動かしたりパートナーチェンジをしたりする、また、踊りやすい適切な距離を保って隊形を作ったり動きやすい組み方をしたりするなどのいろいろな対応をして踊ることである。</p> <p>これらの指導に際しては、日本の民謡では、地域に伝承されてきた民謡や代表的な日本の民謡の中から、優雅な踊りや力強い踊りなどを難易度を踏まえて選び、躍動的な動きや手振り、腰を落とした動きなどの特徴をとらえて踊るようにさせることが大切である。外国のフォークダンスでは、代表的な曲目から、曲想、隊形や組み方などが異なる踊りを難易度を踏まえて選び、複数のステップのつなぎ方、パートナーとの組み方などの特徴をとらえて、互いにスムーズに踊るようにさせることが大切である。なお、フォークダンスの指導では、踊りが生まれ伝承されてきた地域や風土などの背景や情景を思い浮かべるとともに、踊りや動きの中に込めたい感じや表現の視点を重視して指導することが大切であるが、その参考として、いくつかの曲目と動きの例を以下に示すものである。</p> <p>＜曲目と動きの例示＞ 日本の民謡 ・よさこい節などの小道具を操作する踊りでは、手に持つ鳴子のリズムに合わせて、沈み込んだり飛び跳ねたりする躍動的な動きで踊ること。 ・越中おわら節などの労働の作業動作に由来をもつ踊りでは、種まきや稲刈りなどの手振りの動きを強調して踊ること。外国のフォークダンス ・パティケーク・ボルカ(アメリカ)などの早いリズムに合わせて拍手などを入れた踊りでは、相手と合わせて踊ること。 ・ヒンキー・ティンキー・パリー・プー(アメリカ)などのゲーム的な要素が入った踊りでは、グランド・チェーンの行い方を覚えて次々と替わる相手と合わせて踊ること。 ・ハーモニカ(イスラエル)などの軽やかなステップの踊りでは、クレーフバインステップやハーモニカステップなどをリズムカルに行って踊ること。 ・オスローフルツ(イギリス)などの順次パートナーを替えていく踊りでは、ワルツターンで円周上を進んで踊ること。</p> | |

[別表 3]

ダンス系(リズムダンス・現代的なリズムのダンス)の内容の体系化

| 学校種 | | 小学校 | | |
|---------------|--------------------|--|---|--|
| 発達の段階 | 各種の運動の基礎を培う時期 | | 多くの領域の学習を経験する時期 | |
| | 第1学年・2学年 | | 第3学年・4学年 | |
| 領域 (領域の内容) | 表現リズム遊び (リズム遊び) | | 表現運動 (リズムダンス) | |
| 技能 | 内容 | リズム遊びでは、軽快なリズムに乗って踊ること。 | リズムダンスでは、軽快なリズムに乗って全身で踊ること。 | |
| | 解説 例示 | <p>軽快なリズムの音楽に乗って弾んで自由に踊ったり、友達と調子を合わせたりして楽しく踊る。</p> <p>現代的なリズムダンス</p> <p>〔リズムと動きの例示〕 ○ 弾んで踊れるようなやや速いテンポのロックやサンバなどの軽快なリズムの曲や児童にとって身近で関心の高い曲 ・リズムに乗って、弾む、回る、ねじる、スキップするなどの動きを繰り返して即興的に踊ること。 ・友達と手をつないだり、まねをしたりして踊ること。 ※「内容の取扱い」で示されているフォークダンスを含めて指導する場合の〔リズム（踊り）と動きの例示〕 ○ ジェンカ(フィンランド)、キンダーボルカ(ドイツ)、タタロチカ(ロシア)など、軽快なリズムと易しいステップの繰り返しで構成される簡単なフォークダンス ・スキップやランニングなどの簡単なステップで、音楽に合わせてみんなで踊ること。</p> | <p>軽快なロックやサンバなどのリズムに乗って全身で弾んで踊ったり、友達と自由にかかわり合ったりして楽しく踊ることができるようにする。</p> <p>〔リズムと動きの例〕 ○ 弾んで踊れる軽快なテンポのロックやサンバのリズムの曲 ○ いろいろな速さや曲調の異なるロックやサンバのリズムの曲 ・軽快なロックやサンバのリズムに乗って、その場で弾む、スキップで移動するなど全身で即興的に踊ること。 ・動きにアクセントを付けたり、ねじる・回るなどの動きを組みわせたり、素早い動きやストップなどでリズムの変化を付けたりして続けて踊ること。 ・ロックの弾みや後打ち（後拍が強調された弱起のリズムでアフタービートともいう）、サンバの「ウンタッタ」（※下線は、強調を表す）のシンコペーション（拍子の強弱を逆転させたり変化させたりしたリズム）のリズムの特徴をとらえ、体の各部分でリズムをとったり、体幹部（おへそ）を中心にリズムに乗ったりして全身で踊ること。 ・2・3人で手をつないだりくぐり抜けたりして自由にかかわり合ったりして踊ったり、友達と調子を合わせたり対応したりして踊ること。</p> | |

| 中学校 | | 高等学校 | |
|---|--|---|----------|
| 多くの領域の学習を経験する時期 | | 卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにする時期 | |
| 第1学年・第2学年 | 第3学年 | 入学年次 | その次の年次以降 |
| ダンス (現代的なリズムのダンス) | | | |
| 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊ること。 | 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴をとらえ、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ること。 | 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊ること。 | |
| <p>「リズムの特徴をとらえ」とは、例えば、ロックの場合は、シンプルなビートを強調することを示している。また、ヒップホップの場合は、ロックよりも遅いテンポで強いアクセントがあるので1拍ごとにアクセントのある細分化されたビートを強調することを示している。</p> <p>「変化のある動きを組み合わせ」とは、手拍子、足拍子、スキップ、片足とび、両足とび、蹴る、歩く、走る、ねじる、回る、転がる、振る、曲げるなどの動きを素早く動いてみたり、止まったりすることを組み合わせることで踊ることである。</p> <p>「リズムに乗って全身で踊る」とは、ロックの弾みやヒップホップの縦のりの動き（体全体を上下に動かしてリズムをとる動き）の特徴をとらえ、体の各部位でリズムをとったり、体幹部を中心にリズムに乗ったりして全身で自由に弾みながら踊ることである。</p> <p>指導に際しては、現代的なリズムのダンスでは、シンコペーション（拍子の強弱を逆転させたり変化させる）やアフタービート（後拍を強調する）のリズムの特徴がある。そのため、動きやすいビートとテンポを選んで踊るようにする。また、生徒の関心の高い曲目を用いたり、弾んで踊れるようなやや速めの軽快なテンポの曲や曲調の異なるロックやヒップホップのリズムの曲などを組み合わせたりするようにする。また、仲間やグループ間で、簡単な動きを見せ合って交流する活動を取り入れることなどの指導の工夫を行うことが大切である。</p> | <p>「変化とまとまりを付けて」とは、短い動きを繰り返す、対立する動きを組み合わせる、ダイナミックなアクセントを加えるなどの変化や、個と群の動きを強調してまとまりを付けることである。</p> <p>「リズムに乗って全身で踊る」とは、この段階では、体幹部でリズムをとって全身で自由に弾んで踊ることを発展させ、体の各部位の動きをずらしたり運動させたりして踊ることや、ダイナミックなアクセントを加えたり違うリズムを取り入れたりして、変化を付けて連続して踊ることである。指導に際しては、ロックやヒップホップなどのリズムに合った曲を、指導の段階に応じてグループごとに選曲させる。まとまりのある動きをグループで工夫するときは、一人一人の能力を生かす動きや相手と対応する動きなどを取り入れながら、仲間とかかわりをもって踊ることに留意させたり、仲間やグループ間で、簡単な作品を見せ合う発表の活動を取り入れたりするようにする。また、現代的なリズムのダンスでは、既存の振り付けなどを模倣することに重点があるのではなく、変化とまとまりを付けて、全身で自由に続けて踊ることを強調することが大切である。</p> | <p>「リズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり」とは、シンコペーション（拍子の強弱を逆転させたり変化させる）、ダウンビートやアップビート（下拍あるいは上拍を強調する）などのロックやヒップホップのリズムの特徴をとらえてリズムに乗ったりはしたり、重心の上下動や非対称の動きを強調したりして全身で自由に踊ることである。</p> <p>「変化とまとまりを付けて」とは、短い動きを繰り返す、対立する動きを組み合わせる、ダイナミックなアクセントを加えるなどの変化や、個と群の動きを強調してまとまりを付けることである。</p> <p>「仲間と対応したりして踊る」とは、仲間の動きをリードしたり、仲間の動きに合わせて、異なる動きで高低や緩急強弱を付けて互いの動きを強調したりするなど、仲間とのいろいろな対応をして踊ることである。</p> <p>これらの指導に際しては、指導の段階に応じてグループごとに選曲させ、リズムの特徴をとらえた独自の動きを楽しんで踊ることができるようにすることが大切である。また、まとまりのある動きをグループで工夫するときは、一人一人の能力を生かす動きや相手と対応する動きなどを取り入れながら、仲間とかかわりをもって踊ることに留意させたり、仲間やグループ間で、簡単な作品を見せ合う発表や一緒に踊り合う交流の活動を取り入れたりするようにすることが大切である。現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊ることが大切であるが、その参考として、いくつかのリズムと動きの例を以下に示すものである。</p> | |
| <p><リズムと動きの例示></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然な弾みやスイングなどの動きで気持ちよく音楽のビートに乗れるように、簡単な繰り返しのリズムで踊ること。 ・軽快なリズムに乗って弾みながら、揺れる、回る、ステップを踏んで手をたたき、ストップを入れるなどリズムをとらえて自由に踊ったり、相手の動きに合わせてたりすらしたり、手をつなぐなど相手と対応しながら踊ること。 ・シンコペーションやアフタービート、休止や倍速など、リズムに変化を付けて踊ること。 ・短い動きを繰り返す、対立する動きを組み合わせ、ダイナミックなアクセントを加えるなどとして、リズムに乗って続けて踊ること。 | <p><リズムと動きの例示></p> <p>簡単なリズムの取り方や動きで、音楽のリズムに同調したり、体幹部を中心としたシンプルに弾む動きで自由に踊ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽快なロックでは、全身でビートに合わせて弾んだり、ビートのきいたヒップホップでは膝の上下に合わせて腕を動かしたりストップするようにしたりして踊ること。 ・リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせ、動きに変化を付けて踊ること。 ・リズムや音楽に合わせて、独自のリズムパターンや動きの連続や群の構成でまとまりを付けて踊ること。 | <p><リズムと動きの例示></p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽快なリズムに乗って全身を弾ませながら、リズムの特徴をとらえたステップや体幹部を中心とした弾む動きで自由に踊ること。 ・リズムの特徴をとらえたステップやターンの組合せに上半身の動きを付けて、ダウンやアップのビートを強調してリズムに乗ったり、リズムに変化を与えるためにアクセントの位置をずらしたりして自由に踊ること。 ・リズムの取り方や床を使った動きなどで変化を付けたり、身体の部位の強調などで動きにメリハリを付けて、二人組や小グループで掛け合って全身で自由に踊ること。 ・選んだリズムや音楽の特徴をとらえ、変化のある動きを連続して、個と群や場の使い方を強調した構成でまとまりを付けて踊ること。 | |

ダンス系(リズムダンス・現代的なリズムのダンス)の内容の体系化

| 学校種 | | 小学校 | | | |
|-----------|---------------|---|--|---|------------------------------|
| 発達の段階 | 各種の運動の基礎を培う時期 | | 多くの領域の学習を経験する時期 | | |
| | 第1学年・2学年 | | 第3学年・4学年 | 第5学年・第6学年 | |
| 領域(領域の内容) | | 表現リズム遊び | 表現運動 | | |
| 態度 | 内容 | 運動に進んで取り組み、だれとでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。 | 運動に進んで取り組み、だれとでも仲よく練習や発表をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。 | 運動に進んで取り組み、互いのよさを認め合い助け合って練習や発表をしたり、場の安全に気を配ったりすることができるようにする。 | |
| | 解説 | 愛好的 | 運動に進んで取り組むこと。 | 運動に進んで取り組むこと。 | 運動に進んで取り組むこと。 |
| | | 公正 | | | |
| | | 協力 | きまりを守り、だれとでも仲よく踊ること。 | きまりを守り、友達と励まし合って練習や発表、交流をすること。 | 約束を守り、友達と助け合って練習や発表、交流をすること。 |
| | | 責任 | | | |
| | | 参画 | | | |
| | 健康・安全 | 友達とぶつからないよう場の安全に気を付けること。 | 活動の場の安全を確かめること。 | 活動の場の安全に気を配ること。 | |

| 中学校 | | 高等学校 | |
|--|---|---|----------|
| 多くの領域の学習を経験する時期 | | 卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにする時期 | |
| 第1学年・第2学年 | 第3学年 | 入学年次 | その次の年次以降 |
| ダンス | | | |
| 運動に積極的に取り組むとともに、よさを認め合おうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。 | 運動に自主的に取り組むとともに、互いの違いやよさを認め合おうとすること、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 | ダンスに主体的に取り組むとともに、互いに共感し高め合おうとすること、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 | |
| 運動に積極的に取り組むこと。 | 運動に自主的に取り組むこと。 | 運動に主体的に取り組むこと。 | |
| 「よさを認め合おうとすること」とは、仲間のよいアイデアや表現に声をかけるなど、互いの個性や表現を認め合って、だれとでも踊りに楽しく取り組めるようにすることを示している。そのため、仲間や他のグループの発想や動きのよさに声をかけるなど、互いに認め合って学習することで、お互いの運動意欲が高まることを理解し、取り組めるようにする。 | 「互いの違いやよさを認め合おうとすること」とは、表現方法の違いにかかわらず仲間のよいアイデアや表現に賞賛するなど、客観的な立場から、自己と他者の違いを認め、そのよさを認め合おうとすることを示している。そのため、仲間を賞賛することは、コミュニケーションを深めること、自由な身体表現を認め合うことでダンスの楽しさが高まること、身体表現を通して共感し合うことがダンスの魅力のひとつであることを理解して、取り組めるようにする。 | 「互いに共感し高め合おうとすること」とは、主体的な学習の段階では、互いの違いやよさを肯定的に評価し賞賛することを通して、それぞれの表現や踊りに共感し、互いに高め合おうとすることを示している。そのため、仲間の表現や踊りの互いの違いやよさを客観的に評価し伝えることは、仲間との連帯感を高めること、互いのアイデアや表現を賞賛し共感することによって、個を生かしたダンスの楽しさが一層深まることを理解し、取り組めるようにする。 | |
| 「～など」の例には、仲間の学習を援助しようとするところがある。これは、練習の際に、仲間の動きの手助けをしたり、学習課題の解決に向けて仲間に助言したりしようとするなどを示している。そのため、仲間の学習を援助することは、自己の能力を高めたり、仲間との連帯感を高めたり、気持ちよく活動することにつながることを理解し、取り組めるようにする。 | 「～など」の例には、互いに助け合い教え合おうとすることがある。これは、練習や動きを見せ合う発表などの際に、仲間の動きをよく見たり、互いに課題を伝え合ったりしながら取り組もうとすることを示している。そのため、互いに助け合い教え合うことは、仲間との連帯感を高めたり、課題の解決に役立つなど自主的な学習を行いやすくしたりすることを理解し、取り組めるようにする。 | 「～など」の例には、互いに助け合い高め合おうとすることがある。これは、練習や動きを見せ合う発表などの際に、運動観察を通して仲間の課題を指摘したり、課題解決のアイデアを伝え合ったりしながら取り組もうとすることを示している。そのため、互いに助け合い高め合うことは、課題の解決に向けて自分で計画を立てて活動するなど主体的な学習を行いやすくすること、共通の目標に向けて共に切磋琢磨する仲間をもつことが、自らの運動の継続に有効であることなどを理解し、取り組めるようにする。 | |
| 「分担した役割を果たそうとすること」とは、練習などを行う際に、音響や小道具などの用具の準備や後片付けなどの分担した役割に積極的に取り組もうとすることを示している。そのため、分担した役割を果たすことは、練習や発表会を円滑に進めることにつながることで、社会生活を過ごす上での必要な責任感を育てることにつながることを理解し、取り組めるようにする。 | 「自己の責任を果たそうとすること」とは、練習や交流会の運営などの仲間と合意した役割に、責任をもって自主的に取り組もうとすることを示している。そのため、自己の責任を果たすことは、活動時間の確保につながることで仲間との人間関係がよくなること、自主的な学習が成立することを理解し、取り組めるようにする。 | 「役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること」とは、練習や交流会、発表会などで仲間と合意した役割を積極的に引き受け、責任をもって主体的に取り組もうとすることを示している。そのため、主体的な学習が成立するには、仲間と活動を行う上で必要な役割を作ること、決めた役割に対して、責任をもって分担すること、グループで果たすべき責任が生じた場合には、積極的に引き受ける姿勢が求められることを理解し、取り組めるようにする。 | |
| / | / | 「合意形成に貢献しようとする」とは、個人や学習グループの課題の解決に向けて、自己の考えを述べたり、相手の話を聞いたりするなど、グループの話し合いに責任をもって関わろうとすることを示している。そのため、相互の信頼関係を深めるためには、対立意見が出た場合でも、仲間を尊重し相手の感情に配慮しながら発言したり、提案者の発言に同意を示したりして話し合いを進めることなどが大切であることを理解し、取り組めるようにする。 | |
| 「健康・安全に気を配る」とは、体調の変化などに気を配ること、用具や練習場所などの自己や仲間の安全に留意することが大切であることを示している。そのため、体調に異常を感じたら運動を中止することや、踊る際の音響設備の置き方や、小道具の扱い方やけがの事例を理解し、取り組めるようにする。 | 「健康・安全を確保する」とは、踊りの用具を目的に応じて使用したり、気温が高い時は適度な水分補給や休憩を取るなど必要に応じて安全対策を講じたりすることなどを通して、健康を維持したり自己や仲間の安全を保持したりすることを示している。そのため、疾病やけがなどを防止するための留意点などを理解し、取り組めるようにする。 | 「健康・安全を確保する」とは、主体的な学習の段階では、体調や環境の変化に注意を払いながら運動を行うこと、けがを未然に防ぐために必要に応じて危険の予測をしながら回避行動をとるなど、自己や仲間の健康を維持したり安全を保持したりすることを示している。そのため、体調の変化に応じてとるべき行動や、自己の体力の程度に応じてけがを回避するための適正な運動量や踊りの小道具の使用の仕方、けがを未然に防ぐための留意点などを理解し、取り組めるようにする。 | |

ダンス系(リズムダンス・現代的なリズムのダンス)の内容の体系化

| 学校種 | | 小学校 | | | 中学校 | |
|---------------|---------------|--|---|--|--|--|
| 発達の段階 | | 各種の運動の基礎を培う時期 | | 多くの領域の学習を経験する時期 | | |
| | | 第1学年・2学年 | 第3学年・4学年 | 第5学年・第6学年 | 第1学年・第2学年 | |
| 領域 (領域の内容) | | 表現リズム遊び | 表現運動 | | ダンス | |
| 知識・思考・判断 | (小学校は「内容」欄のみ) | 簡単な踊り方を工夫できるようにする。 | 自己の能力に適した課題を見付け、練習や発表の仕方を工夫できるようにする。 | 自分やグループの課題の解決に向けて、練習や発表の仕方を工夫できるようにする。 | ダンスの特性、踊りの由来と表現の仕方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。 | |
| | 解説(知識) | | | | <p>「ダンスの特性」では、ダンスは、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己を表現することを楽しむ喜びを味わうことのできる運動であること、他者とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する身体表現であることを理解できるようにする。また、現在では、様々なダンスが世代を超えて世界の人々に親しまれていることを理解できるようにする。</p> <p>「踊りの由来」では、踊りは、民族ごとの生活習慣や心情が反映されていることや、様々な文化の影響を受け発展してきたことなどを理解できるようにする。</p> <p>「表現の仕方」では、表したいイメージをひと流れの動きにして表現する、伝承されてきた踊りの特徴をとらえて踊る、軽快なリズムに乗って全身で弾みながら自由に踊るなどの身体を使った表現の仕方があることを理解できるようにする。</p> <p>「関連して高まる体力」では、ダンスはリズムカルな全身運動であることから、その動きに関連した体力が高まることを理解できるようにする。例えば、ダンスを継続することで、柔軟性、平衡性、筋持久力などがその動きに関連して高められることを理解できるようにする。</p> | |
| | 解説(思考・判断) | 表現遊びやリズム遊びの基本的な動き方を知り、楽しく踊るための動きを選んだり、友達のよい動きを見付けたりすること。 題材やリズムの特徴を知り、それに合った動きを選んだり見付けたりすること。 | 題材やリズムの特徴を知り、自分の能力に合った題材やリズムを選ぶこと。 表現やリズムダンスの動きのポイントを知り、楽しく踊るための自分に合った課題を見付けること。 よい動きを知り、友達のよい動きを自分の踊りに取り入れること。 | 課題の解決の仕方を知り、自分やグループの課題に応じた動きを選んだり、構成を変えたりすること。 自分やグループの持ち味を知り、練習や発表会、交流会で自分やグループの持ち味を生かす動きをつくること。 | <p>「課題に応じた運動の取り組み方を工夫」とするとは、活動の仕方、組み合わせ方、安全上の留意点などの学習した内容を、学習場面に適用したり、応用したりすることを示している。第1学年及び第2学年では、基礎的な知識や技能を活用して、学習課題への取り組み方を工夫できるようにする。</p> <p>< 例示 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味や関心に合ったテーマや踊りを設定すること。 ・課題に応じた練習方法を選ぶこと。 ・発表の場面で、仲間のよい動きや表現などを指摘すること。 ・学習した安全上の留意点を仲間と学習する場面に当てはめること。 | |

| 中学校 | 高等学校 | |
|---|------|--|
| 卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにする時期 | | |
| 第3学年 | 入学年次 | その次の年次以降 |
| ダンス | | |
| <p>ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、体力の高め方、交流や発表の仕方などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。</p> | | <p>ダンスの名称や用語、文化的背景と表現の仕方、体力の高め方、課題解決の方法、交流や発表の仕方などを理解し、グループや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。</p> |
| <p>「ダンスの名称や用語」では、創作ダンス、フォークダンス及び現代的なリズムのダンスで用いられる身体運動や作品創作に用いられる名称や用語を理解できるようにする。</p> <p>「踊りの特徴と表現の仕方」では、創作ダンスではテーマや題材からイメージを自由にとらえて仲間とともに表現し合って踊ること、フォークダンスでは伝承された踊りを仲間とともに動きを合わせて踊ること、現代的なリズムのダンスでは現代的なリズムに乗って自由に仲間とともにかかわり合って踊ることを理解できるようにする。</p> <p>「体力の高め方」では、ダンスのパフォーマンスは、体力要素の中でも、主として柔軟性、平衡性、筋持久力などに影響される。そのため、様々な動きと関連させた柔軟運動やリズムカルな全身運動をすることで、結果として体力を高めることができることを理解できるようにする。</p> <p>「交流の仕方」では、簡単な作品を見せ合うこと、発表会やダンスパーティなどがあること、見る人も拍手をしたりリズムをとるなどしたりして交流し合う方法があることを理解できるようにする。</p> <p>「～など」の例には、運動観察の方法がある。自己の動きや仲間の動き方を分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることを理解できるようにする。例えば、ダンスを見せ合うこととお互いの動きを観察したり、視聴覚教材などで自己のグループの表現や踊りを観察したりすることで、自己の取り組むべき技術的な課題が明確になり、学習の成果を高められることを理解できるようにする。</p> | | <p>「ダンスの名称や用語」では、創作ダンス、フォークダンス及び現代的なリズムのダンスで用いられる作品創作、踊り方、リズムの特徴などに関する名称や用語、それぞれのダンスには、多様な表現につながる重要な動きや空間の使い方などのポイントがあること、それらを高めるための安全で合理的な練習の仕方があることについて理解できるようにする。特に入学年次の次の年次以降では、選択するダンスが個別となるため、自ら選んだダンスについての行い方やその高め方について理解を深められるようにする。</p> <p>「文化的背景と表現の仕方」では、例えば、創作ダンスでは、自己表現のダンスとして誕生した文化的背景とテーマやイメージを自由にとらえた動きで仲間と表現し合って踊ること、フォークダンスでは異なる風土や歴史を背景にして生まれてきた文化的背景と特徴をとらえて仲間とともに踊ること、現代的なリズムのダンスでは、20世紀後半に生まれたという文化的背景と特徴のあるリズムと動きには多様な関係があること、そのリズムに応じた仲間との自由な対応によって踊ることなど、それぞれに特有の文化的背景と表現の仕方があることを理解できるようにする。</p> <p>「体力の高め方」では、ダンスはリズムカルで表現的な全身運動であり、体力要素の中でも、主として、柔軟性や調整力などに影響される。そのため、それぞれのダンスに応じた全身運動と関連させて体力を高めることが重要であることを理解できるようにする。</p> <p>「課題解決の方法」では、自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、交流や発表などを通して学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることを理解できるようにする。例えば、それぞれ特有の表現や踊りに対して、仲間や自己の能力に応じて段階的に目標を設定し、その目標に適した具体的なテーマのとらえ方、曲目、リズムや動きを設定し、課題に適した練習に繰り返し取り組み、互いに動きを見せ合う、記録した映像を見るなどの運動観察及び交流や発表などを通して学習の成果を確認し、さらに表現や踊りを高める練習方法を見直すことでその課題を解決し、新たな目標を設定するなどの課題解決のための道筋があることを理解できるようにする。</p> <p>「～など」の例には、見る人が手拍子をしたりその場で踊ったりして参加するなど、それぞれのダンス特有の表現や踊りを共有して楽しむ鑑賞の仕方があることを理解できるようにする。</p> |
| <p>「自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫」するとは、運動の行い方や練習の仕方、活動の仕方、健康・安全の確保の仕方、運動の継続の仕方などのこれまで学習した内容を、自己の課題に応じて、学習場面に適用したり、応用したりすることを示している。第3学年では、これまで学習した知識や技能を活用して、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができるようにする。</p> <p>< 例示 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・表したいテーマにふさわしいイメージを見付けること。 ・それぞれのダンスの特徴に合った踊りの構成を見付けること。 ・発表や仲間との交流の場面では、互いの違いやよさを指摘すること。 ・健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選ぶこと。 ・ダンスを継続して楽しむための自己に適したかかわり方を見付けること。 | | <p>「グループや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫」するとは、運動の行い方、仲間と教え合うなどの活動の仕方、健康・安全の確保の仕方、運動の継続の仕方などのこれまでの学習した内容をもとに、自己や仲間の課題に応じて、運動を継続するために、知識を新たな学習場面に適用したり、応用したりすることを示している。</p> <p>卒業後に豊かなスポーツライフを継続できるようにするための視点を重視して、課題の設定の仕方、グループや自己の課題に応じた練習計画の立て方、交流や発表の仕方などの運動を継続するための取り組み方を工夫することができるようにする。</p> <p>< 例示 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を踏まえて、目標に応じたグループや自己の課題を設定すること。 ・課題解決の過程を踏まえて、取り組んできたグループや自己の課題を見直すこと。 ・仲間との交流や発表後の話合いの場面では、互いの違いやよさを指摘し、合意を形成するための調整の仕方を見付けること。 ・練習、交流や発表の場面で、健康・安全を確保・維持するために自己や仲間の体調に応じた活動の仕方を選ぶこと。 ・ダンスを生涯にわたって楽しむため自己に適したかかわり方を見付けること。 |